

◇◇◇主な功績◇◇◇

【団 体】

金ケ瀬小学校
金ケ瀬放課後子供教室 殿
(大河原町)

平成17年から金ケ瀬小学校の1年～3年生を対象に教室を開設している。コーディネーターの及川氏を中心に、6名の地域住民の方が教育活動サポーターとして、放課後の子供たちを見守り、安全・安心に活動できる居場所(活動拠点)づくりに尽力している。ハンドベルの発表や太鼓演奏など様々な体験活動の機会を設け、保護者や学校関係者の前で発表するなど、毎回子供たちに対して熱心に指導している。子供たちも放課後子供教室を毎回楽しみにしており、運営スタッフにとっても日々成長していく子供たちの姿を見ることがエネルギーとなっている。また、金ケ瀬放課後子供教室の活動の充実、地域の活性化にも繋がっている。

パネルシアターの会
そらまめ 殿
(村田町)

平成21年度から、町内の子供たちへの学習支援等を行う「むらたっ子応援ボランティア」として、家庭教育支援活動などを中心に行っている。幼稚園や子育て支援センターにおいて、パネルシアターやエプロンシアター、大型絵本の読み聞かせやマジックなどを実施している。事前には入念な練習を欠かすことなく、幅広い視点での子供たちの学びの充実に努めている。また、公民館を拠点に定例会を開催し、子供たちへの学習支援に対する知識・技術の向上を目指しながら活動にあたっている。その活動は顕著で、当町の協働教育の推進に多大な功績を挙げている。

岩沼市家庭教育支援チーム
「ほっぺの会」 殿
(岩沼市)

平成23年度から現在に至るまで11年間、市内の小学校において就学時健診の際に入学を控えた保護者を対象に「子育て親育ち講座」を実施。これまで多くの保護者に対し「児童を持つ親の心構え」についての講話や「親のみちしるべ」を取り入れた家庭教育支援活動を展開している。また、全ての会員が、県子育てサポーターリーダー養成講座を修了しており、学校との協働教育活動だけでなく、子育て支援センターでの「赤ちゃんサロン」や「子育て支援者養成講座」の講師を務めるなど、岩沼市の協働教育に大きく貢献している。

亘理町
放課後楽校 殿
(亘理町)

東日本大震災後、町内における吉田小学校をはじめ、順次5校の放課後子供教室の再興に尽力している。それぞれの学校の児童にとって安心・安全な放課後の居場所づくりに率先して取り組んでいる。参加する児童が楽しめる内容となるようコーディネーターを中心にボランティアスタッフが協議しながら行っている。スタッフの趣味や特技を生かした活動内容も取り入れるなど、地域住民の生涯学習の充実に大きく寄与している。児童とのつながりがとても強いことに加え、学校や保護者からの信頼も厚く、地域・家庭・学校と連携して展開していることから、協働教育の振興・発展に大きく寄与している。

山王小学校
放課後子ども教室 殿
(多賀城市)

平成26年から子供たちの安全で安心な居場所づくりを進め、子供たちが地域社会の中において心豊かで健やかに育まれる環境整備に取り組んでいる。活動拠点が体育館という利点を生かし、異学年間によるスポーツ交流やスタッフの特技を生かした手芸や紙すきを子供たちと一緒にやるなど貴重な体験の場を提供している。講師を招いて「アンガーマネジメント」への理解を深めたり、東日本大震災時の体験を伝え、防災について考えたりと学びの機会も提供している。さらには、放課後児童クラブとの連携、協働も積極的に行っている。

地域学校協働活動推進員や学校運営協議会委員を中心に様々な分野で活躍してきた方々の幅広いネットワークを生かし、地域全体で子どもたちの成長を支援する活動を推進している。

気仙沼市
食生活改善推進員協議会
階上地区協議会 殿
(気仙沼市)

平成23年度に気仙沼市が協働教育プラットフォーム事業を開始した当初から、階上公民館とともに地域の子供たちや大人を対象とした事業を企画し、料理指導を行っている。ここ数年は、保育所や小・中学校、高等学校において、食生活改善という視点から、地域課題である「減塩」と「地産地消」(地元食材の活用)をテーマに、階上地区の特産品であるイチゴや野菜、海産物などを使ったメニューを考案している。公民館を通じて、学校等と丁寧に打合せを行い、子供たちに分かりやすく、達成感を感じられる活動を実践している。また、「親子と一緒に料理教室」や「親子クッキング」などの事業は、食を通じた家庭教育支援にもつながっており、年を追うごとに地区内の協働教育の拡充に大きな役割を果たしている。

唐桑海友会 殿
(気仙沼市)

唐桑海友会は、地場産業である牡蠣養殖を子供たちに知ってほしいという強い思いから、10年以上前から唐桑小学校の学習活動に参画。種ばさみ(4年生)から牡蠣むき(6年生)までの一連の作業や成長過程の観察など、各学年で行う学習に積極的に協力している。また、5年ほど前からは、子供たちに故郷の豊かな海の様子を見てもらおうと中井小学校(唐桑小学校と統合予定)が開催している「海に親しむ会」の支援も行っている。その他にも市内小学生を対象とした漁船見学にも積極的に取り組んでいる。唐桑地域のみならず気仙沼市の基幹産業である漁業の振興に尽力している。

【個 人】

西根 秀雄 様
(柴田町)
学校支援ボランティア

昭和58年の西住小学校設立の準備段階から西住地区親子会会長、育成会会長として西住小学校区児童の健全育成に貢献している。平成20年度からは、西住スクールガードの代表として児童の登下校時の交通安全指導や見守り活動を行っている。活動内容の報告や児童の様子を伝えるなどの連絡調整も密に行い、双方をつなぐパイプ役としての役割も担っている。また、長年にわたり「しばた100選」にも選ばれている「西住子供おはやし」の指導にも携わっている。地域全体の父親役としての信頼も厚く、柴田町の児童の健全育成、及び地域学校協働活動の推進に尽力している。

高橋 了 様
(大和町)
地域コーディネーター

平成25年度より地域コーディネーターとして大和町立吉田小学校と地域の人々や団体を繋ぐ役割を担っている。小学校学習田での米作りでは、田植えから稲刈り、脱穀までの指導に携わり、地域のボランティアとの連絡調整や年間を通しての水田の維持管理など、児童が円滑に活動できるよう献身的な働きをされている。児童にも、田んぼの先生として親しまれ、地域コーディネーター、そしてボランティアとしての地域及び町への功績は非常に顕著なものである。

伊藤 わか 様
(色麻町)
地域コーディネーター

平成19年度から平成22年度まで「色麻町協働のまちづくり実行委員会」会長として色麻町内小中学校の学校支援活動事業に従事した。平成23年度から平成29年度まで「色麻町協働教育プラットフォーム事業実行委員会」の委員長を、平成30年度から令和3年度まで「色麻町地域学校協働本部」の本部長を務め、色麻町の協働教育の振興に長きにわたり尽力した。また、現在も学校支援事業や地域活動事業にボランティアとして継続して携わっており、これまでの経験や知識を生かし、事業への助言や後継者の育成等に努めている。

宮城県教育委員会 協働教育推進功績表彰団体・個人一覧

(敬称略)

団 体	金ヶ瀬放課後子供教室	(大河原町)
	パネルシアターの会 そらまめ	(村田町)
	岩沼市家庭教育支援チーム 「ほっぺの会」	(岩沼市)
	亘理町放課後楽校	(亘理町)
	山王小学校放課後子ども教室	(多賀城市)
	気仙沼市食生活改善推進員協議会 階上地区協議会	(気仙沼市)
唐桑海友会	(気仙沼市)	
個 人	西根 秀雄	(柴田町)
	高橋 了	(大和町)
	伊藤 わか	(色麻町)
	二階堂 利巳	(栗原市)
	今出川 隼人	(登米市)
大久保 良彦	(石巻市)	
藤原 充啓	(女川町) ※活動拠点	

二階堂 利巳 様
(栗原市)
地域コーディネーター

「金成ホテル保存会」において、長年にわたりゲンジボタルの保存活動並びに環境保全活動に取り組んでこられた。学校教育との関わりは、約40年に及んでいる。金成小中学校が小中一貫校として開校した平成26年から現在に至る9年間、第4学年の総合的な学習の時間において、ゲストティーチャーとして授業のサポートを行っている。長きにわたる継続的な学習支援は、子供たちの学習意欲の向上や学習内容の充実に大いに貢献している。

今出川 隼人 様
(登米市)
学校支援ボランティア

昭和63年、当時の校長から「米岡小学校に学校田を作り、子供たちに米作りを体験させたい。」という話があったことを機に、学校の側にある所有農地を提供し、自らが指導者となって米作りを教える活動を始める。平成27年度からは、「登米市学校・地域教育力向上対策事業」における学校支援ボランティアとして、30年以上米岡小学校の児童への学習支援を継続して行っている。昔ながらの米作りという貴重な活動を通して、子供たちや教職員と積極的にコミュニケーションを図り、学校と地域をつなぐ役割を担っている。

大久保 良彦 様
(石巻市)
学校支援活動

飯野川小学校において、学校田での水稻栽培に25年以上にわたって協力をいただいている。
4月の種まき、田植えから秋の稲刈りまでの期間、苗や圃場の水管理、除草作業を行うとともに、稲刈り後には、粃摺り、袋詰め作業の体験を行うなど年間を通して活動の中心的な役割を担っている。自身の農作業予定と時期が重なってしまうことがあっても、学校のスケジュールに合わせた支援活動を行うなど、飯野川第一小学校時代から長きにわたり地域の協働者の一人として、多大な貢献をしている。

藤原 充啓 様
(女川町) ※活動拠点
放課後子供教室地域
コーディネーター

平成17年度から女川町生涯学習課の主催事業である「まなびっこ(年6回)」において、身近な物を使った科学実験講座「アトムクラブ」の講師を務め、子供たちに科学の楽しさを伝えてきた。
また、平成18年度からは、学社融合事業(地域学校協働活動)である女川中学校の「潮活動(年5回)」においても「アトムクラブ」の講師を務めている。実験を通して、子供たちの科学への興味・関心を高めようと熱心に活動に取り組んできた。
震災後も、何度も女川町を訪れ、子供たちの笑顔を取り戻そうと心の復興にも寄与されてきた。学びに向かう姿勢を大切にされた指導で、今日にまで17年間にわたり、女川町の協働教育の推進に大きく貢献している。